

Application for Participation

Associated Schools Project (ASP)

for Promoting International Education

安全・安心な居場所のある学校づくり

～心のかかわりに気づき、命のつながりを感じる活動を通して～

Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

1. Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は、これまでも避難訓練などの防災学習を中心に、子どもたちが安心して暮らせるための教育活動を行ってきた。そしてさらに人権教育も加えることで、子どもたちに「命」を大切にすることを育みたいと考えた。そこで、2012年度より研究テーマを「安全・安心な居場所のある学校づくり」と新たに設定した。

本校は、海拔0メートル地帯に立地しており、東日本大震災以来、津波避難ビルに指定された。したがって子どもたちの命を守るために、南海・東南海地震を想定したさまざまな方策を行ってきている。その一方で、道徳、生徒会活動を中心に、「自分の命・他者の命」について考える活動にも取り組んできた。

このことを「持続可能な開発のための教育(E S D)」の推進に結び付けていくために、これまでの教育課程を見直しながら、教科や道徳、総合的な学習の時間と生徒会活動を関連付けたE S Dカレンダーを作成し、実践していくこととした。

このE S Dカレンダーをもとにした実践を継続していくことで、将来にわたって、自分を大切にするとともに他者とのかかわりやつながりも大切にすることを育むことができると考えている。

2. Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、E S Dへの取り組みの入り口を防災学習から捉えている。なぜなら、本校の生徒はもちろん、保護者や地域も海に隣接した学校の状況に対して、大きな危機感を感じているからである。しかし、防災学習だけにとどまることなく、人権学習もつなげることで、「命の学習」を系統立てて行っていくことも目的の1つとしたい。

(1) 安全・安心な町づくりや学校づくりを目指した防災学習

- ・年間5回行う想定に応じた「避難訓練」
- ・地震や津波、避難などの「防災に関する学級活動」
- ・防災について学ぶ「講座」や「講演会」

校舎の上階や地域施設まで避難する実際に即した避難訓練を実施したり、安全な町づくりを学習したりすることで、防災に関する意識を高めることができるようにする。

(2) 「いのちの月間」を中心とした命の学習(人権学習)

- ・6月「いのちの月間」に道徳の時間で行う「いのちの教材」
- ・朝の会や帰りの会などで行う「いのちの話」
- ・校区の危険箇所を調査し、発表する「いのちの日の集会」

命に関する活動を全校や学年、学級、通学団など、さまざまな場面を活用して設定することで、自分や他者の命の大切さについて考えることができるようにする。

(3) 行事等に関連付けた活動

- ・南陽フェスティバル（文化祭）、授業参観（年間2回）

生徒、保護者、教員、地域住民が一体となって成果を発信する機会をもつことで、地域の誇りや愛着心を生み、人とのかかわりやつながりを大切にする意識を養うことができる。

3. Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

本校では、E S Dの目的を自分たちが住む町の防災や人とのつながりについての学習を深め、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であると捉え、その資質や能力の基礎的な部分を育てることであると考えている。

南陽中学校は、海拔0メートル地帯であり、三河湾から最短1キロメートルのところ立地しており、南海・東南海地震が起きた際には津波による被害が予測されている。そのため、いつ起こってもおかしくないといわれている今となつては、常に命の危機にさらされている状態だろう。また、地震に対する保護者の意識も高く、子どもたちの避難場所や避難方法などの問い合わせなどもある。こうした環境の中で、子どもたちが命について考え、学校の仲間や自分の親、地域の人たちのことを考えることができるようになれば、思いやりをもった子どもが育つと考えた。

そのために、人権学習や学校行事等に関連付けた活動で、それぞれの目標が達成できるよう、次のようなE S Dカレンダーを作成し、取り組んでいる。

< 1 > 活動を進めるためのE S Dカレンダー（中3の例）

3年生では、「命」をテーマに取り上げ、防災・人権学習に重点を置き、下記のように取り組んでいる。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	握手			高瀬舟		挨拶 —原爆の写真に寄せて 故郷					学びて時に これを習ふ	
社会	第1次世界 大戦と日本	第2次世界 大戦と日本		現代社会と 私たちの生活			人権と日本 国憲法	人権と共生 社会		国民生活と 福祉	国際社会と 世界平和	
理科				生命の連続性 自然界のつり合い								地球の明るい未来のために
保健体育		生活のしかた と生活習慣病				喫煙、飲酒、薬 物乱用と健康			エイズとそ の予防			
英語						A Mother's Lullaby						
道徳			ヘソの緒の話			22世紀の わたし		生命のバトン				
総合	大都会の防災						「命を守る家」 耐震町づくり					
行事	避難訓練 授業参観	南陽五輪 授業参観	いのちの日 の集会 避難訓練			南陽フェス ティバル	連携避難訓練		人権集会 避難訓練		避難訓練	
教育相談・アンケート調査												

< 2 > E S Dカレンダーに基づいた活動

(1) 安全・安心な町づくりや学校づくりを目指した防災学習

年間5回行う避難訓練をさまざまな想定に合わせて行っている。特に2回目以降は、現実的な訓練に取り組んでいる。2回目は大地震が起き、大津波が押し寄せてくることを想定して、校舎の3階と4階へ全員が避難する訓練を行っている。3回目は津波が到

達するまでに時間がある想定で、高台にある地域の保健施設「ほいっぷ」へ速やかに避難し、安全な行動がとれるような状況を設定している。

そして、3回目と4回目は教職員や子どもたちに日時を知らせず、できるだけ実際の状況に近い形で行っている。放課や清掃時などに行うことで、自ら行動する意識が高まってきている。



(2) 「いのちの月間」を中心とした命の学習（人権学習）

6月を「いのちの月間」として、学活や道徳、行事などのさまざまな場面で「命」をテーマとした学習の場を設定している。

全校集会「いのちの日の集会」では、町別生徒会（通学団）ごとに自分たちの通る場所へ出かけ、危険な場所を全体に紹介している。そうすることで、被災時だけではなく、日常の生活から安全に暮らす意識を高めることをねらいとした。

また12月の人権週間では、全校集会（NOS会）の中で「人権」についての講話を聞く場を設定している。さらに生徒理解を深めるため、教育相談活動やアンケート調査も随時行っている。



(3) 行事等を関連付けた活動

活動や活動の成果を保護者、地域住民に発表したり、披露したりする場として、主な行事（南陽フェスティバル）や授業参観の中で効果的に伝えている。

特に授業参観では、「命」や「思いやり」などのつながりやかかわりを大事にする活動を、保護者とともに行っている。



4. Type of materials to be used（使用する教材）

○南陽中学校ハザードマップ（自作）

- TOYOHASHI 防災・災害情報<<http://www.city.toyohashi.aichi.jp/bousai/index.html>>
- 地震の手引き（豊橋市教育委員会）
- 「津波から命を守るために」<<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/index.html>>
- 津波防災啓発視聴覚教材DVD「津波に備える/津波から逃げる」
- 道徳教材「明るい人生」（愛知県教育振興会）
- 「心のノート」（文部科学省）
- 一行詩「いのちの詩（うた）」<<http://www.k-v-support.jp/ichgyosi/2011/result/>>
- 人権作文コンテスト作文集
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/sakubun_21nendo/sakubun02.html>
- 教科書「国語 3」 光村図書
- 教科書「新しい社会 公民」 東京書籍
- 教科書「理科の世界」3年 大日本図書
- 教科書「中学校保健体育」 大日本図書
- 教科書「NEW HORIZON」 東京書籍

5. Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

生徒の理解と姿勢の評価は、以下のように行う。

- 避難訓練や活動ごとに振り返りを行い、取り組みの成果を生徒の記述した感想や発表の内容から把握する。
 - まとめの新聞や発表会、ワークシートなどから、生徒の意識や取組状況、技能を把握する。
- 上記の評価とともに、さらに下記のことを実施して、ESD活動のさらなる充実を図る。
- 12月の「学校評価アンケート」（保護者・生徒・教職員対象）で、防災や人権に関する意識変化の様子を把握し、結果と考察を公表する。
 - 学校評議員の評価や意見、生徒の実態や地域の思いをもとに、ESDカレンダーを見直し、地域と連携・協働する教育活動を展開する。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター（※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会）に活動のレポートを提出します。)

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, Principal

Institution's name

Nanyo Junior High School